北海道大学大学院医学研究科／医学部

広　報

第　21　号

2004（平成16年）1月

年頭にあたり

医学研究科長・医学部長　西　　信　三

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり昨年一年間の出来事を振り返ると共に本年の抱負を述べさせて頂きたいと思います。

教務関係では、昨年の夏に行った３回目の学士編入試験には３００名以上の受験者があり、大変優秀な５名の学生が本年４月に入学する予定です。また、修士課程の入学者（定員２０名）は平成１４年では２０名、平成１５年は３２名でしたが、本年４月入学することになる合格者は４１名と、年々増えており、非常に喜ばしい事と考えております。

医学部保健学科は昨年１０月に設立され、その記念式典・祝賀会が文部科学省をはじめ学内外から多数の方々の御出席を頂き盛大に催されました。新たに就任した２０名の保健学科の教授は医学部教授会のメンバーとなっています。医学部教授会の下に医学科会議および保健学科会議を設置し、それぞれに固有の事項を審議しています。また、それぞれの学科に学科長を置くこととなりました。保健学科学長には松野　一彦教授が就任しています。医学科長は医学部長が併任しています。平成１６年４月には第１期生の学生１８０名を北大医学部保健学科学生として迎える予定です。

医学部の大学院重点化は平成１２年に完了しています。それに関連する施設整備として総合研究棟が建設中でしたが、当初予定されていたより早く３月には完成し皆様に御披露できることでしょう。これは約７０億円の巨費を投じて建設されているものであり、教育研究の施設として最高のものと確信しています。この建物の正式名称は、「医歯学総合研究棟」と決定しております。

「国立大学等施設緊急整備５カ年計画」による「研究施設の狭隘化、老朽化の解消」に沿う南研究棟の改修は２月に完了し、使用開始の見込みです。平成１６年度の概算要求で御願いしていました研究棟改修のうち昨年末政府予算の内示では東南研究棟の改修計画が認められました。本年度は厳しい国の財政状況を反映してか、全国で新築は３件、改修は７件と聞く中で東南研究棟の改修が認められたことは、誠に有り難く、関係各位の御理解に厚く御礼を申し上げます。

医学研究科が中心となった２つのＣＯＥ申請は残念ながら認められませんでした。獣医学研究科が中心となったＣＯＥ計画「人獣共通感染症制圧のための研究開発」が採択され、それには医学研究科から事業推進メンバーとして有川　二郎、玉城　英彦、澤　洋文、菊田　英明、小橋　元の諸氏が参加しております。文部科学省ＲＲ２００２プロジェクト（２１世紀型革新的ライフサイエンス技術開発プロジェクト萌芽の融合研究開発プログラム「脳科学と学習・行動の融合領域」）に申請した計画（研究代表者　井上　芳郎教授）は、平成１４年度の調査研究を経て、平成１５～１８年度の期間で採択されました。その実施母体として「脳科学研究教育センター」が設置され、その事務局は医学研究科に置かれています。プロジェクトは「臨界期における脳機能の発達」、「コミュニケーションの発達」、「先端計測研究」の３テーマ、２６名の研究者から成りますが、医学研究科からは渡辺　雅彦、吉岡　充弘、小山　司、本間　研一、岩崎　喜信、福島　菊郎、澤口　俊之、本間　さとの諸氏が参加しています。

昨年３月に退官等された教授５名の後任の選考が終わり２月中には全員の発令が終わります。本年３月退官予定５名の教授の後任選考は現在進行しており、法人化を控え、教授不在の空白期間を避ける目的で４月の発令を目指しています。１年間で１０名の新教授を迎えることとなります。

さて、平成１６年４月１日から国立大学は法人化されます。「国立大学法人法」は、衆議院および参議院での審議の後、一昨年７月９日に成立しています。平成９年１２月の行政改革会議の報告に端を発した議論は平成１１年４月の閣議決定「国立大学の独立行政法人化については、大学

の自主性を尊重しつつ、大学改革の一環として検討し、平成１５年までに結論を得る」を経て、平成１２年７月に文部省に設置された「国立大学等の独立行政法人化に関する調査検討会議」での１年８ヶ月間の検討の後に、平成１４年３月に最終報告『新しい「国立大学法人」像について』が公表されていました。本学では評議会の下に平成１１年７月に「独立行政法人化に関するワーキング・グループ」、平成１３年３月に「法人化問題検討ワーキング・グループ」、平成１４年７月には組織運営、目標計画、人事業務および財務会計の４つの専門委員会を有する「北海道大学法人移行準備委員会」が設置され、鋭意検討が進められています。

平成１５年２月には中間報告また平成１５年１２月１日には最終報告「法人移行に向けて」が公表され広く意見を求めて検討が加えられ、１月２６日の評議会で決定の運びとなります。これに基づき運用の為の諸規則を制定する作業が急ピッチで進められることになると思います。大学の教育研究の改革・発展のために良い契機となる様、皆様と共に努力したいと思っております。　御協力宜しく御願いいたします。

昨年は医学研究科・医学部に関する数多くの不名誉な報道がなされ、その対応と実態の調査ならびに改善のため奔走しました。そのため２つの委員会を設置し、平成１５年１２月１６日に「医師の名義貸し問題調査委員会」が、翌１７日に「医師の顧問契約等問題調査委員会」が調査結果の報告書を公表しました。

前者の設置の経緯は次の通りです。平成１４年７月、札幌医科大学医師のいわゆる名義貸しが判明し、新聞等で報道された。同年９月、北海道社会保険事務局担当官から北海道大学医学部附属病院に対して名義貸しに関する情報提供と内々の調査依頼があった。このため、本学医学研究科及び医学部附属病院において内部調査を実施し、その結果を情報提供した。その後平成１５年４月に至って、北海道保健福祉部は、北海道大学関係医師の名義貸しの事実を公表するとともに、北海道大学に対し、関係医師の名義貸しの実態の情報提供を要請してきた。また、北海道社会保険事務局長からも、同様の要請があった。これらの要請を受け、医学研究科で対応を協議した結果、平成１５年４月２５日に、医学研究科長の下に部外者を加えた「医師の名義貸し問題調査委員会」を設置し、実施調査することを決定した。

報告書の一部を下記に抜粋するが、詳細は報告書を参照されたい。「平成１５年４月１日現在北海道大学医学研究科・医学部・医学部附属病院に在職（在籍）する教官、医員、医員（研修医）、大学院及び研究生等１，１００名のうち２７７名が名義貸しを行っていた（表）。」「今回の名義貸し等の問題は、北海道大学医学研究科・医学部としての社会的責任及び医師としてのモラルの面において極めて不適切なものである。したがって、名義貸し等を行った大学院生等及び関係教官に対する処分等について、今後評議会等において審議することとする。」「名義貸し等は、既に一切行われていないが、今後再びこのような事態が発生しないよう、具体的な改善策を検討する必要がある。関係医療法規を学部の授業科目に取り入れるなど、既に実施しているものもあるが、さらなる改善策については、平成１５年１０月に医学研究科教授会の下に設置した「名義貸し問題等改善策検討委員会」に委ねる。」

名義貸し問題等改善策検討委員会は平成１６年１月９日までに３回の委員会を開催し検討を続けています。平成１５年８月２２日より自治体病院等よりの顧問料や寄附金受領などの記事が連日の様に新聞報道されました。

医学研究科では、これら一連の報道を重く受け止め、平成１５年８月２５日に医学研究科長の下で対応を協議しその結果、医学研究科における顧問医兼業の実態及び地方自治体等からの資金の流れ等に係わる事実関係を調査するため、「医師の顧問契約等問題調査委員会」を設置しました。同委員会は「顧問医兼業について」、「地方自治体からの寄付金について」、「兼業先からの中元、歳暮等の贈答品の受領について」、「財団法人北海道地域医療振興財団のドクターセンター運営モデル事業について」、「奈井江町立国民健康保険病院への医師派遣の中止について」などの項目について詳細な調査を行いました。

「顧問医兼業及び地方自治体からの寄付金受け入れについて今回明らかになった実態は、国家公務員として服務規律及び事務手続きの面から不適切であると判断せざるを得ないものである。したがって、関係教官に対する処分等について、今後評議会等において審議することとする。」「今後再びこのような事態が生じないよう、病院を対象とする顧問医兼業の見直しや地方自治体からの寄付金の受け入れ等について具体的な改善策を検討する必要があるが、この点については、平成１５年１０月に医学研究科教授会の下に設置した「名義貸し問題等改善策検討委員会」に委ねるものとする。」等が報告の骨子であります。

上記の改善策検討委員会は「医局等に対する寄附金の取り扱い」、「医師派遣窓口の一本化」、「地域医療支援のための方策」、「医局制度のあり方」などについても検討をしており２月中にも教授会提言する事になっています。

調査対象者の内訳及び名義貸し等該当者内訳

区　分	職　員	医　員	医員(研修医)	大学院生	研究生等	合　計
調査対象者	271	180	36	510	103	1100
名義貸し	0	2	2	85	6	95
名義貸し類似行為	0	0	0	203	26	229
重複者	0	0	0	46	1	47
当該者実数	0	2	2	242	31	277

年頭のご挨拶

教務主任　櫻　井　恒太郎

新年明けましておめでとうございます。

昨年４月から教務主任を仰せつかり、右往左往しているうちに歳が変わってしまった、とのが実感です。恒例の教務行事に加えて、保健学科の発足、修士学生の増加、医歯学総合研究棟の準備、研究棟の改修に伴う学生用スペースの確保、CBTやOSCEの拡大実施、など新たな仕事も増えた上に、ご承知の大学院生問題での会議や面接など、大変慌しい１年でした。多くの教育熱心な教官の熱意と、事務職員各位の御支援のおかげで、なんとか対応ができたと、この場を借りて感謝申し上げます。

教務主任になって変わったことの第一は、これまでは担当する専門分野の講義や実習だけが学生と接触する機会であったのに対して、突然に全学年の学生と深くかかわるようになったことです。教務主任の出番は、まずは落第しそうな学生の救済だ、と言われていたのですが、それ以外にも実にさまざまな問題が持ち込まれ、防忘録として「カルテ」を作ったところたちまちにして５０枚では足りなくなりました。メンタルな問題で悩む学生も多く、副主任の助けを得ながら本人と面談したり父兄と長電話をすることも必要となり、臨床医に戻ったような気持ちです。　時々、成績不良者を呼び出して原因を尋ねるのですが、「実は〇〇部活動のやりすぎで」といわれると変に安心？しています。

学生の悩みを聞いていると、適性に応じた進路選択の支援が必要であることを感じます。中学生や高校生はますます早熟傾向にあると言われますが、教室の学生をみていると精神的な成熟と自立はむしろ遅くなっているように思います。受身になり勝ちな学生に対して入学後の早期からどのような進路があるかについての助言をする必要があると同時に、長期的には、北大医学部はどのような学生を入学させ、どのような医師を育てるのかについての明確なビジョンを打ち出すことが重要でしょう。コアカリキュラム、CBTやOSCE、臨床研修の義務化、など学生教育の標準化や評価のガイドラインにはそれなりのビジョンがありますが、多様な個性をもつ学生に対し型をはめるだけではないか、という心配もあります。

この点に関しては、教官の中に自分の授業や研究室で個々の学生との接触を深めて適切な指導をしてくださっている人も多くいることや、学生の中に早期からUSMLEや自分の関心のある勉強を始めるグループができていることを知って心強く思っています。オフィスアワーの設置を待つまでもなく、学生の訪問はどの教官も歓迎すると思います。学業の相談でも、悩みでも、受けた授業の教官やクラス担任、あるいは教務主任、副主任に遠慮なく声を掛けてください。

今年も懸案の解決を図りながら少しでも前進したいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

松本市上空からの富士山　遠景は伊豆大島

保健学科の設置のご挨拶

医学部保健学科　学科長　松　野　一　彦

昨年10月１日に、医療技術短期大学部（以下、医療短大）の改組・転換により北海道大学医学部に保健学科が設置されましたので、設置の経緯と概要を紹介させていただきます。

北大医療短大は、看護学科、理学療法学科、作業療法学科、衛生技術学科、診療放射線技術学科の５学科からなる３年制の短期大学部として昭和55年10月に設置されました。国立で５学科をもつ医療短大は北大を含めて４大学しかありません。以来約20年間で計4000名余の臨床検査技師、看護師、理学療法士、作業療法士、診療放射線技師、助産師を養成してまいりました。

近年の医学・医療の進歩はめざましく、医療技術は高度化するとともに専門分化しております。これに対応して、専門技術職にも医師と連携して高度なチーム医療を進める専門的知識と技術を身につけることが要求されています。このような医療状況を考えると、現在の３年制の医療短大の教育には限界があります。また、高度かつ専門的な医学理論・技術を身につけるのはもちろんですが、問題解決能力をもち、高い倫理性をもった医療技術者の養成も求められています。

これらの問題を解決するため、平成３年に文部省は短期大学部の４年制転換の必要性を表明し、平成４年に広島大学、平成５年に大阪大学に保健学科が設置されました。それ以来１年に１～４大学ずつ医療短大から保健学科への転換が図られております。北大では医療短大の設置が遅かったこと、最も多い５学科を有することなどから保健学科の設置が遅れ、ようやく平成15年10月に、東北大学、京都大学、熊本大学とともに最後尾で保健学科が設置されることになりました。

北海道大学医学部保健学科は、看護学専攻（初年時学生定員70名＋３年次編入10名）、放射線技術科学専攻（37名＋３名）、検査技術科学専攻（37名＋３名）、理学療法学専攻（18名＋２名）、作業療法学専攻（18名＋２名）の５専攻からなります。４学年で学生数760名の大学科です。医療短大との違いは、４年間の教育で、語学、生物・化学・物理、一般教養などの全学科目が拡大すること、遺伝子検査などの専門科目の充実などのカリキュラムに差があることの他、看護学専攻を卒業すると、これまでの看護師に加えて保健師の国家試験受験資格が得られ、さらに選択科目によって助産師の受験資格も同時に得ることができます。

保健学科の校舎は、しばらくは医療短大の教育と平行して行われることもあり、２～３年間は従来の医療短大の校舎を使用することになりますが、その後は学生数が増えますので北大構内のどこかに増築することになる予定です。

平成18年４月から、医療短大などの卒業生を対象に３年次編入の募集を開始します。また、平成20年４月から大学院修士課程（２年間）が、さらに平成22年４月には大学院博士課程（３年間）が設置される予定です。対象は、保健学科などの大学卒業者に加えて、医療短大および各種専門学校の卒業者の入学も可能となるように検討中です。

我々保健学科教官一同は、今年度から始まる保健学科の教育に全力を尽くすとともに、それぞれの専攻毎の研究ならびにそれらを統合するようなHealth Science研究の創成に邁進する所存です。これまで医学部保健学科の設置にご尽力いただきました医学部の皆様に心から御礼申し上げますとともに、これから開始されます保健学科における医療専門職の養成に今後ともご協力いただきますようお願い申し上げます。

「北海道大学病院」の発足にあたって

北海道大学病院長　杉　原　平　樹

北海道大学では、平成１５年１０月１日から医学部附属病院と歯学部附属病院が改組・統合されました。全国４２の医学部附属病院を持つ国立大学うち、１１大学には歯学部附属病院がありますが、９大学で医学部附属病院と歯学部附属病院が統合されます。この病院統合は、国の経済状況を背景とした構造改革の一環としての国立大学法人化を見据えた組織再編と捕らえることができます。

統合後の病院の正式名称は「北海道大学医学部・歯学部附属病院」ですが、長らく道民ならびに札幌市民の皆様に「北大病院」として親しまれきたことから医療法上は「北海道大学病院」の名称で管理・運営されます。病院統合にともない、病院長の専任化、３名の副病院長体制、看護部、薬剤部ならびに部分的な中央診療施設の組織統合、診療支援部ならびに医療支援課の新設などが稼働しています。

「北海道大学病院」が医療の実践をとおした教育・研究施設としての機能を担うことは従来どおりですが、法人化を見据えた病院経営の観点がより重要になります。今まで、おのおの独立した医療施設で提供されてきた医科診療と歯科診療は超高齢化による社会的ニーズ、多様な価値観への対応ならびに患者サービスの向上などの観点から、一つの大学病院の中で医科・歯科の専門性を尊重しつつ、有機的・効率的に機能した医科・歯科診療として総合的に提供されることが求められています。

また、教育・研修においても、北海道大学病院は患者本意の医療の実践、質の高い安全な医療ならびに先端医療の提供をとおして、すべての医療人の教育・研修に相応しい環境を整備する必要があります。

北海道大学病院が、医科・歯科の総合的医療の機能的な提供、効率的な医療人の教育・研修の実践、ならびに２１世紀に求められる先端医療の開発・応用への環境整備などを行うためには、現状の歯学部附属病院等の建物では物理的にも不可能ですので、医学部附属病院により隣接した「医歯総合メディカルセンター」の新設を要求しています。

「総合メディカルセンター」には、歯科診療関連の外来・病棟機能は無論ですが、医科・歯科統合診療部門としての頭蓋・顎・顔面再建外科（仮称）やデイサージャリーセンター、外来化学療法センターなどの新設ならびに卒前・卒後、生涯教育を充実させるための教育・研修センターなどを創設する予定です。また、地域連携型の治験を推進するために「治験管理センター」の機能を拡大・整備するとともに、卓越した生命科学研究の成果をより迅速に臨床応用し，先端的診断・治療として社会還元するための組織「トランスレーショナル・リサーチ」を実践するために「遺伝子工学・細胞治療センター」の新設を予定しています。

ソフト面でも、病院統合にともない、医科・歯科患者のＩＤカード一元化が急務ですが、医科診療としても医療の透明性の担保、患者サービスの向上、医療情報の共有化などの観点から、一患者一カルテを基本とするカルテの中央管理ならびに電子カルテ導入の検討をすでに初めており、外来・病棟の臓器別診療体制の再編・整備等をも検討する必要があります。本年４月からの法人化・中期目標として、日本医療機能評価機構あるいはＩＳＯなどによる外部評価機構による審査・認証の取得を目標に診療・教育・管理体制の整備を「北海道大学病院」としての基本方針と考えています。

課題山積ですが、北海道大学病院が将来にわたり、良質な診療を基本とする優れた教育・研修、研究環境を維持すべく努力する所存ですので、関係各位のご理解とご支援をいただけると幸いです。

平成１５年度医局対抗サッカー大会

大学院医学研究科（神経機能学講座精神医学分野）　松　山　哲　晃

平成１５年秋も、いまや毎年恒例となった医局対抗サッカー大会が開催されました。本大会も今回で第７回を数えることになります．近年のサッカー人気の隆盛を反映して，年々各医局ともチーム強化に熱が入り，試合内容もレベルアップしている印象を受けます．会場は西区八軒の農試公園ツインキャップ（屋内グラウンド）で行うためフィールドは通常のものより狭く、フィールドプレーヤー６人、ゴールキーパー１人の７人制で行われています。今大会は計１３チームが参加し，抽選の上，まず３グループに分けられ予選リーグを戦いました．参加チームは以下の

通りです：整形外科，形成外科，泌尿器科，リハビリテーション科（以上，予選A組），精神科，第二内科、生体医工学・スポーツ診療科，麻酔科（以上，同B組），第一外科，第二外科，第一内科，循環器内科，第三内科（以上，同C組）．予選リーグ戦は１１月１・２・３日に行われ，各グループ総当り、１試合１５分ハーフで行われました。そこで上位８チームが勝ち上がり，１１月２９日に決勝トーナメントを戦いました．ここからは１試合２０分ハーフで，同点の場合はゴールデンゴール方式の延長戦，更にPK戦で決着をつけることになります．準決勝第一試合は，第一内科を延長の末に下した前回，前々回優勝の精神科と，形成外科を下した３年前の優勝チーム・第一外科が対戦し，第一外科が堅い守備で精神科を２－０と完封して勝ち上がりました．準決勝第二試合は，第二内科を下した過去２度優勝の第二外科と，生体医工学・スポーツ診療科を下した前回準優勝の整形外科が対戦し，激戦の末，第二外科が４－３で勝ち上がりました．決勝戦は予選C組でも対戦（第一外科が３－１で勝利）している２チームの再戦となりましたが，第一外科はリベンジを許さず，延長ゴールデンゴールで４－３の勝利を収めました．結果は以下の通りです：優勝・第一外科（３年ぶり，２度目），準優勝・第二外科，三位・精神科，四位・整形外科．今大会も，例年にも増してレベルが高く，スリリングで劇的な試合が多かったように思われます．

本大会も、公正かつ的確なレフェリングでスムーズな大会運営に貢献して下さった医学部サッカー部の皆さんと、声援で選手を励まし試合を盛り上げて下さった多くの観客の方々に支えられ、幸い大きな事故もなく終えることができました。来年度以降も、たくさんのチームが参加し、本大会をますます盛り上げて下さることを期待しております。

お知らせ

◆　教務関係の主な行事予定　◆

◇大学院

大学院入試関係

・博士課程入学試験：
（合わせて学位申請に係る語学試験を実施）
２月４日（水）－外国語試験、専門科目試験
２月５日（木）－留学生に対する日本語試験

・研究生入学願書受付期間（平成１６年４月入学）：
２月９日（月）～１６日（月）

博士課程修了関係

・学位論文審査等日程：
１月下旬に公開発表、各審査委員による論文審査開始
２月１２日（木）の教授会で学位論文最終審査
３月２５日（木）学位記(博士)授与式１１時３０分挙式

◇医学部

学部授業関係

・定期試験：
２年：２月　２日（月）～　６日（金）
３年：２月１６日（月）～２０日（金）
５年：４月１９日（月）～３０日（金）

・３年基礎特別演習（基礎配属）：
２月３日（火）～１３日（金）

・学位記授与式（卒業式）：
学位記授与式：３月２５日（木）１０時挙式
（９時１５分集合）
医学部学位記伝達式：１３時から
卒業祝賀会：学位記伝達式終了後
卒業者の発表は２月１３日（金）の予定

・平成１６年度授業開始日：
２～６年：４月５日（月）
３年学士編入学者：４月５日（月）
１年：４月１２日（月）

・退官記念最終講義：３月３日（水）１３：００から
講演者：石橋輝雄教授、吉木敬教授、小林邦彦教授、
北畠顕教授、加藤紘之教授

・医師国家試験日程：３月２０日（土）～２２日（月）

大学入試関係

・大学入試センター試験：１月１７日（土）～１８日（日）
・私費外国人入学試験：２月２０日（金）
・本学第２次試験（前期日程）：２月２５日（水）
・帰国子女特別選抜面接試験：２月２６日（木）
・本学第２次試験（後期日程）：３月１２日（金）

◆　平成１６年度科学研究費補助金の申請状況　◆

平成１６年度の科学研究費補助金の申請件数は、全体で２０８件でした。内訳は下表のとおりとなっています。（参考までに平成１２年度分から掲載しました。

研究種目	審査区分	12年度	13年度	14年度	15年度	**16年度**	備考
特別推進研究		2	1	1	1	**0**	
特定領域研究				43	33	**28**	特定（A, C）を統合
特定領域研究（A）		48	22				13年度で廃止
特定領域研究（C）		16	38				13年度で廃止
地域連携推進研究		2					13年度で募集中止
基盤研究（S）			14	2	3	**3**	13年度発足
基盤研究（A）	一般	6	9	13	9	**9**	
	展開	5	6				13年度で廃止
	海外学術	0	0	0	0	**0**	12年度発足
基盤研究（B）	一般	44	36	49	39	**39**	
	展開	44	38				13年度で廃止
	海外学術	1	2	4	1	**2**	12年度発足
基盤研究（C）	一般	40	40	38	33	**41**	
	企画調査	4	1	3	1	**2**	
萌芽研究				58	63	**62**	14年度から新たな種目
萌芽的研究		52	50				13年度で廃止
若手研究（A）				0	0	**3**	14年度から新たな種目
若手研究（B）				11	6	**20**	14年度から新たな種目
奨励研究（A）		20	13				13年度で廃止
計		284	270	222	189	**208**	

※　申請件数は新規です。
※　なお、１６年度分については、医学部保健学科分を含んでいます。
※　教官１人あたりの申請件数は、１．０５件です。

◆　受　賞　◆

文部科学大臣表彰

侵襲制御医学講座　文部科学技官　東　ミツエ　氏

文部科学技官東ミツエ氏は医学に関する教育・研究等に係る補助的業務に関する顕著な功労が認められ、平成１５年１１月２６日に文部科学大臣から医学教育等関係業務功労表彰者として表彰されました。

◆ 医学研究科・歯学研究科合同慰霊式 ◆

医学研究科及び歯学研究科では，平成１５年９月２６日(金)午後１時３０分から医学部基礎大講堂において，この１年間医学・歯学研究のため尊い御遺体を捧げられた１４８名の御霊の御冥福をお祈りする慰霊式を執り行いました。

慰霊式には，遺族，来賓，井上副学長，関係部局長，教職員，学生等１６５名が参列しました。

式は解剖体御芳名奉読の後，参列者全員による黙祷を行い，続いて西医学研究科長及び戸塚歯学研究科長から御霊の御遺志に報いるためにも一層の教育・研究・診療の発展に努めたい旨の追悼の辞が述べられた後，参列者による献花を行い，最後に戸塚歯学研究科長から謝辞があり，慰霊式は厳粛のうちに終了いたしました。

◆ 医学部保健学科設置記念式典・祝賀会 ◆

平成１５年１０月１日（水）医学部に保健学科が設置されたことに伴い，記念式典及び祝賀会を同年１０月２日（木）に，京王プラザホテルにて開催しました。

記念式典は，文部科学省，北海道，札幌市，国公私立大学，各種団体及び実習施設病院関係者並びに北大関係者等，約２８０名が列席し，西医学部長による式辞，中村総長のあいさつの後，小松文部科学省高等教育局医学教育課長，元国立短期大学協会会長，高橋北海道知事，飯塚北海道医師会長からの祝辞，さらに祝電披露と続き，盛会のうちに終えました。

引き続き行われた祝賀会では，松野医学部保健学科長のあいさつに続き，高林東北大学医学部保健学科長，村尾北海道大学医療技術短期大学部初代主事からの祝辞があり，総長をはじめ１９名による鏡開きの後，井上副学長の発声により祝宴が始まり，テーブルスピーチ等があり，最後に西医学部長，松野医学部保健学科長両名による謝辞があり，大盛況のうちにおひらきになりました。

編集後記

広報第21号をお届けします。広報19号から編集委員を務めさせていただいております菊田です。医療、教育の大改革の嵐の中、本年4月から国立大学法人化、卒後臨床研修が開始されようとしております。本号では、医学研究科長の西信三教授に、年頭の御挨拶で国立大学法人化のお話などを、教務主任の櫻井恒太郎教授に、年頭のご挨拶で卒前教育の難しさなどのお話をいただきました。昨年10月1日から医学部附属病院と歯学部附属病院が統合され北海道大学病院となりましたが、杉原平樹病院長からは北海道大学病院の発足にあたってのご挨拶をいただきました。また、北海道大学医学部保健学科、松野一彦学科長には、北海道大学医学部に保健学科が設置された経緯と概要を紹介していただきました。平成16年度科学研究費補助金の申請状況も掲載されております。是非、ご一読ください。(菊田　英明)

― Home Page のご案内 ―

医学部広報は

http://www.med.hokudai.ac.jp/ko-ho/index.html

でご覧いただけます。また、ご意見・ご希望などの受け付け電子メールアドレスは、

ko-ho-office@med.hokudai.ac.jp

となっております。どうぞご利用ください。

北海道大学大学院医学研究科／医学部

発　行　北海道大学医学研究科広報編集委員会
060-8638　札幌市北区北15条西７丁目
連絡先　医学部庶務掛　電話　011－706－5003
編集委員　澤口　俊之、安田　和則、菊田　英明
小橋　元、佐藤　松治